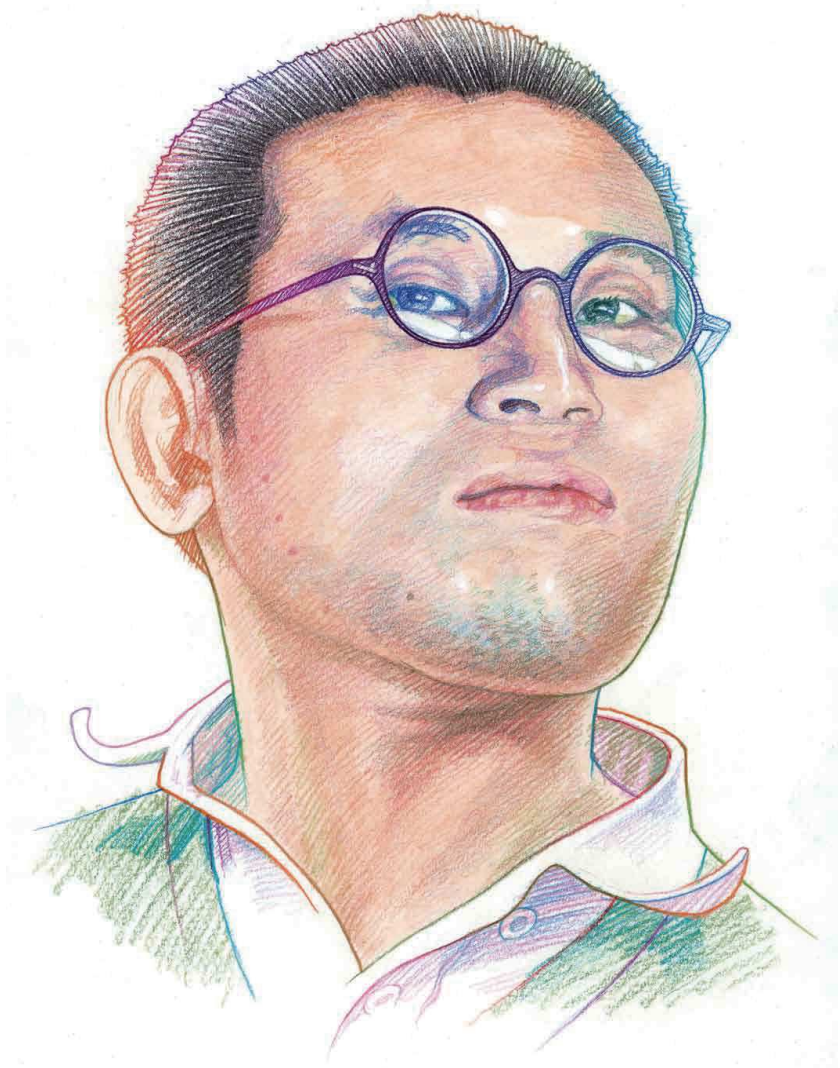


生きた、臥<sup>ね</sup>た、書いた

ふちがみもうせん

淵上毛銭

Fuchigami Mosen



大正4年(1915)～昭和25年(1950)

<sup>みな また</sup>水俣市生まれ

詩人

九州学院から青山学院中学部へ進むが中退。昭和10年(1935)にカリエスを発病し、闘<sup>とうびょう</sup>病生活の中で詩作に励<sup>ほげ</sup>む。『九州文学』の原田種<sup>はら だ たね お</sup>夫と文通、同人となり、詩を発表。『日本談義』『山河』同人として中央詩壇<sup>し だん</sup>との交流を深める。闘病生活と時代の圧迫の苦しみから生まれた作品は、平明な表現の中に厳<sup>ぎょうし</sup>しい人生凝視がある。音楽教師、滝本泰三<sup>たきもとたいぞう</sup>が毛銭の詩に曲を付け、合唱曲となり、現在も歌われている。